奈良女子大学 国際交流センター News Letter

International Exchange Center, Nara Women's University

Mar.2014 Vol. 34

1. 南京大学留学中の近藤さんの報告

本学の短期交換留学制度を利用し、南京大学（中国）へ留学中の近藤香月さん（文学部３回生）からの留学報告です。短期交換留学制度とは、本学に籍をおいたまま海外交流協定大学へ半年または１年間留学する制度です。現在は、20 以上の大学にこの制度を利用して留学することが出来ます。例年５月下旬に交換留学の説明会を実施しています。また、南京大学は夏休みに約１か月間実施している中国語短期研修の研修先です。中国語短期研修の参加者募集説明会は、例年４月に実施しています。興味のある方は是非ご参加ください。

南京大学に留学して

文学部 人文社会学科 社会情報学コース 3 回生 近藤香月

私は 2013 年の９月から、交換留学生として、中国の南京大学で中国語を学んでいる。南京大学での授業は、中国語のみで行われ、先生も中国語か、話せたとしても英語と中国語しか話すことができない。クラスは、留学生全員がテストを受けた上でレベル別に分けられる。そのため、日本人だけのクラスで授業を受けるのでなく、大勢外国人がいる中に日本人が混ざって授業を受ける。例えば、同じクラスには日本人も４人いたが、他にもドイツ人、ポーランド人、インドネシア人、トルコ人、スウェーデン人…がいて、本当にいろいろな国の人たちが一緒に授業を受ける。休み時間には英語や中国語が飛び交い、中国語を使いさえすれば、私たちが想像するような「外国人」とも会話することができる。それが動機づけにもなり、中国語がますます好きになっている。

日本人の友人もたくさんでき、中国語にも慣れ、日本と変わらない日常を過ごしていたのだが、ある日中国の国営テレビ（ＣＣＴＶ）で、愛国心をいつ、どんな時に感じるかというという質問がなされていたのを見た。日本で言う建国記念日になされていた質問なのだが、いくら建国記念日でも日本ではこんな質問をしない。中国人に同じ質問を投げかけてみると、日々愛国心を感じていると言っていた。日本ではこのような答えをする人はめったにいないと思う。このことから、やはりここは外国であって日本とは違う考え方の人が暮らしているのだと改めて認識した。そして、「中国人」と色眼鏡を以って見るのでなく、中国人がどのような教育を受け、どのように考え、どういう生活を送っているのか…に今は関心を持っている。交換留学生として中国に来る以前は、私は１人だけ専門が中国語ではないことを少し気にしていた。しかし、今となっては専門でないからこそ自分の専門だけに興味の範囲を狭めてしまわず、広い視野でものごとを見ることができていると思っている。

そもそも中国に興味を持ったきっかけは、大学の第２言語として中国語を履修したことである。その後、２回生の時に友人と一緒に南京大学短期中国語研修に参加して、より一層中国語に興味を持ち始めた。この頃は中国と日本の関係が悪化し始めた時で、日本では暴動の様子が連日報道されているようだった。しかし多くの人の心配をよそに、南京にいた私たちは全く被害を受けることはなかった。この時から暴動を

しているのは一部の人であって、一般大衆にはそんなに過激な人はいないのではないかと思い始めた。さらに南京は日本人にとって過去の歴史性から特別な所であるが、南京の人たちは私が日本人だと知ったとしても態度を変えず、むしろどこの都市から来たのなどと話を続けてくれる人も多いのが実情である。この点から行った南京に対する印象がとても良く、南京が初めて訪れた外国の都市であるということも相まって、南京がとても好きになった。

交換留学の期間は１年ととても短いものである。しかし、この１年の間にいろいろなことを実際に経験することができる。中国ではもうすぐ春節を迎える。春節とは旧暦の正月のことで中国では春節が最も重要視されている祝日である。日本でもよく報じられているように、中国では爆竹でにぎやかに新年を迎える。そして、家族がみんな帰省し、集まって食事をしたりお酒を飲んだりする。家族で集まって過ごすのは日本と同じだが、日本の正月はどちらかというとしめやかなもので、この点は中国と日本で大きく違っている。これほどの異文化を肌で感じられる機会はあまりないため、春節をとても楽しみにしている。

2. 留学生の卒業・修了

この３月で、奈良女子大学を卒業・修了する留学生による感想文です。奈良や奈良女子大学での思い出を自由に書いてもらいました。留学で経験したことを生かして、今後も活躍されることを期待しています。

人間文化研究科　博士後期課程　比較文化学専攻　アルブタン・ダゴラ（中国）

日本から遠く離れたモンゴル高原で育った私を、７年前、奈良女子大学は満開の桜で迎え入れて下さいました。念願の大学院生活がスタートしましたが、内心は緊張と不安で一杯でした。ただ私は、研究は素晴らしいアイディアを持ってさえいれば自分だけでできるものだと思い込んでいました。

しかし、大学院での研究をしていくうちに、論文を投稿しても却下されたり、研究に行き詰まりを感じていたこともあり、段々と私は精神的に追い詰められてしまい、研究者としての夢を諦めようとしました。その時、指導教員の宮路先生が「やればできます。あなたを助ける人は必ずいます。」と声をかけて下さいました。そして、私の相談にも度々乗っていただきました。宮路先生は時には先輩のように、また時には姉のように私に接して下さいました。

私の研究は、宮路先生のご専門とは少しテーマが異なりましたが、「一緒に頑張りましょう。」と何度も励まして下さいました。先生の研究に対する真摯な姿勢に、私は知的な日本女性の強さを感じました。

研究は山あり谷ありでとても大変でしたが、宮路先生やゼミの仲間達の応援のおかげで、今年の３月に無事に修了することになりました。今私は、研究は家族や周りの人々の応援があってこそ、目標に達成できるものだと考えています。奈良女子大学の先生方を始め、国際課、学生生活課などの職員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

構内の桜が満開になる頃、私は新しい目標に向かって旅立ちます。そして、一人前の研究者になってお世話になった奈良女子大学に恩返ししたいです。

人間文化研究科　博士前期課程　人間行動科学専攻　厳丹丹（ゲンタンタン）（中国）

私は中国の西安から来て、奈良女子大学で２年間の大学院留学生活を送ってきました。最初に奈良に留学しに来たきっかけは、奈良に遊びに来た時に鹿がたくさんいることを知り、とてもかわいらしく思い、ここで生活したいなという思いが強かったからです。

それで、奈良女子大学に来ました。

奈良は、かわいい鹿ちゃん以外に、奈良女子大学の優しい先生たち、ここで出会った友達がいるからこそ、私の中で特別なところになりました。

今振り返ってみると、この２年間、奈良女子大学で留学生活を送ってきて、本当によかったと思っています。ここでしか体験できないことが体験できて、人生の恩師にたくさんのことを教えてもらって、奈良女子大学との絆は切っても切れないものです。私にとって、奈良女子大学での思い出は宝物みたい、これからの人生でもキラキラ輝いていくと思います。

２年間はあっという間に過ぎました。初めて大学の正門から入ってきたときの気持ち、今でも覚えています。「なんでも小さく、かわいらしい大学ですね」と当時の思いは、今思い出して自分もふと笑います。「雀は小さくても五臓ある」という中国のことわざは、奈良女子大学にぴったりです。学校施設や制度は完備していて、奈良女子大学は五臓健全の雀ですね。

この春、奈良女子大学から出るのですが、ここで出会った人たちとの関係は変わらないと思います。この２年間奈良女子大学に教えてもらったこと、感謝しています。いつか恩返ししたいと思います。「さようなら」ではなく、「では、またね！」と言いたいです。

人間文化研究科　博士前期課程　国際社会文化学専攻　陳潔萌（チンケツモウ）（中国）

2014 年２月３日の午前中 12 時ぐらい、N339 で修論の口述試験が終わった瞬間に私はほっとしました。やっと無事に卒業できてよかったなと思いながら、なんかちょっと悲しくなりました。なぜなら、あと２ヶ月ぐらいで奈良女子大学とさようならと言わなければならないからです。

私は奈良女子大学に来てからもうほぼ２年半になりました。振り返ると、2011 年に初めて奈良に来たとき、私は宮崎駿の童話世界に身を置くような錯覚がありました。最初の半年間、私は研究生として院生試験を受けるために毎日プレッシャーでいっぱいでした。しかし、図書館で一生懸命に勉強して疲れたとき、窓の外にのんびりと草を食べている鹿ちゃんを見るとすぐに癒されるような感じがしました。半年後、私は順調に大学院に進学しました。大学院での二年間は毎日が充実していました。奈良女子大学でいろんな知識を取り入れるとともに、先生の指導で自分の研究テーマもちょこちょこ進んでいきました。一方、かつて何でも両親に頼っていた私は、日本に来てからだんだん独立しました。今の私は自分の力で生活できる一人前に成長してきました。

ところで、私の留学生活は完全に順調ではなく、つらい目に遭うことも時々あります。不愉快を解消するために私は旅行します。今まで私は半分ぐらいの都道府県へ行きました。美しい風景を観賞するうえに、日本の伝統文化も十分に味わいました。旅行中たびたび「どこから来たか」と聞かれると、私は「奈良女子大学の留学生です」と答えました。だから、私にとって奈良女子大学は大切な母校で、奈良は人生２番目の故郷になりました。

人間文化研究科　博士前期課程　国際社会文化学専攻（特別聴講学生）　唐菊媛（トウキクエン）（中国）

あっという間に、奈良に来てからもう 10 ヶ月も経ちました。この 10 ヶ月の間に一生忘れられない思い出がたくさんできました。日本に来る前は、非常に不安でしたけれど、実際にこの土地に足を踏み入れてみたら最初の不安はすべて消えてしまいました。日本に到着した当日、私を迎えに来てくださった国際課留学生係の先生たちと指導教員および親切なチューターさんの顔を思い出しますと、感謝の気持ちでいっぱいです。

奈良に住んでいたこの一年間、たくさんの日本人とお友達になり、そして、いろいろな古いお寺と神社を見学しました。世界最大級の木造建築としての東大寺大仏殿の壮大さ、猿沢池から見た興福寺五重塔の立派さ、また唐招提寺から伝わってくる中日関係の深さ、そのどれもに心を強く惹かれました。

そして、大学側も留学生たちのために様々なイベントを行ってくれました。私も何回も生け花教室と茶道教室などに参加させていただきまして、日本文化を体験するいい経験になりました。

しかし、光陰矢のごとし、気づかないうちにもう 2 月になりました。私の交換留学生活もエピローグに迫っています。もうそろそろ帰国しないといけなくなりました。奈良女の皆さんと会えなくなると思い出すたびに、寂しくなります。中国に帰ったら、日本で学んだことをもっと多くの中国人に伝えようと思っています。大学のこのような友好的な交換留学というプログラムを通じ、中日両国のお互いに対する印象が良くなることを期待しています。

人間文化研究科　博士前期課程　言語文化学専攻（特別聴講学生）　潘明昭（ハンメイショウ）（中国）

日本に来た一日目、雨が降っていた日、綺麗なチューターの森優子さんと国際課の先生に会いました。寒かったですが、先生と優子さんの助けをいただいて、すぐに暖かくなりました。あの時の暖かい温度は私の日本に住んでいる一年間の体温になりました。暖かい心、暖かい思い出、暖かい皆の笑顔。指導教員や学生たちなどからいろいろな勉強についての指導をいただいたり、生活上にも関心が寄せられたりして、どうもありがとうございました。しかし、ありがたい気持ちを伝えたければ、言葉で語られません。

一年間は、あっという間に過ぎました。そろそろ帰りますが、「さようなら」とは言いたくありません。「本居宣長の『松阪の一夜』のように、奈良女子大学で私の『奈良女子大学の一年間』をよく過ごしたいと思います。」というのが、私が日本に来たばかりの時に言った言葉です。今はそのような成果が挙げられないかもしれませんが、ここの留学生活のおかげで、将来を眺めると、先生方とチューターさんの期待に応えるために、一生懸命夢を求めると決心しました。

一期一会、そういう可能性もありますが、心の底にやはり「もう一回会いたい」という声が響きました。さようなら、大好きな奈良女子大学！

3. 海外協定大学への教員派遣事業

先月号に引き続き、教員派遣事業に同行した大学院生の報告をご紹介します。奈良女子大学国際交流センターは、海外の協定校との教育交流を促進することを目途に、これらの大学へ本学の教員を派遣し、集中授業を行っています。また、教員派遣の際、授業の準備、教室運営等の実地研修や協定大学の学生及び若手教員との交流を目的に、本学の大学院生や学生が同行しています。今年度の派遣教員は５名、同行した大学院生及び学生は６名でした。

派遣先　:ハノイ貿易大学(ベトナム)
派遣期間:2013年10 月31日～11月5日
派遣教員:研究院　人文科学系　人文社会学領域　武藤康弘　教授

人間文化研究科　博士前期課程　国際社会文化学専攻　國岡　伸

国際交流センターの教員派遣事業としてハノイの貿易大学で集中講義を行う武藤康弘教授に同行させていただきました。

私の受け持ちは奈良女子大学での学生生活や留学制度の説明、書道の講義です。説明に使用するパワーポイントは国際交流センターで作成していただけましたが、書道の講義については用いる道具から講義の内容に至るまで自ら考えなければなりませんでした。

ベトナムには漢字の文化が多少残っているにしろ、書道はほとんど行われていません。そのような国の学生たちが初めて書道を行うということで、プレッシャー以上にやりがいを感じました。ベトナムでは春節の際に、めでたい意味を持つ漢字の版画を購入したり自分の字を書いてもらったりするということを聞いていました。そのため、自分で書けるようになって嬉しいと学生たちに思ってもらえるよう、名前を中心に約５０人分の手本を現地で書きました。手本を書き終える頃には深夜を回っていましたが、非常に達成感がありました。

貿易大学の学生たちはとても真面目かつ素直で、奈良の奇祭やハローキティに学ぶマーケティング手法などといった集中講義のすべての内容を、時に笑い声をあげたり手を叩いたりして楽しんでくれました。感想文はどれも用紙いっぱいに書かれており、ただ講義を聞くだけでなく、内容に関してしっかり自分なりに考えている姿勢がうかがえました。

講義の合間には、貿易大学側の国際交流課の方々や日本語学科の先生方、学生の皆さんが食事に誘ってくれました。ベトナムの料理は観光客の店から現地の人のために設けられた露店に至るまで、どれもとても美味しかったです。現地の方々の食事の作法も綺麗でした。留学だけでなく旅行にもハノイはお薦めします。

最後になりましたが、たくさんご迷惑をおかけした国際交流センターの方々や、親切な貿易大学の国際交流課の方々、日本語学科の先生方、学生方、初対面にも関わらず腕をとって一緒に道を横断してくれた現地の方にお礼を申し上げます。来年度から奈良女子大学に留学してくる貿易大学の学生の方々には、是非この大学で有意義な時間を過ごしていただければと思います。

派遣先　:ハノイ大学(ベトナム)
派遣期間:2013年11月25日～11月30日
派遣教員:研究院　人文科学系　言語文化学領域　鈴木広光　教授

人間文化研究科　博士後期課程　比較文化学専攻　Manh Thi Thanh Nga

国際交流センターの教員派遣事業で、11 月 25 日から 11 月 30 日まで鈴木広光先生とハノイ大学へ同行し、大学院の１年生対象の集中講義のお手伝いをさせていただきました。

昨年度も同じくハノイ大学で鈴木先生の集中講義のお手伝いをいたしました。ハノイ大学の先生方によりますと、昨年の講義は学生からの評

価がとても良くて、今年も是非また鈴木先生にお願いしたかったとのことです。

今回鈴木先生の講義の題目は「日本語のオノマトペの世界」で、オノマトペの使い方の分析を通して自然な日本語を表現するとの目標でした。

初日、教室に入り、学生が３名しかいなくて少し驚きました。事情を伺ったら、今年は大学入試の日にちょうどハノイの町が大きな洪水になり受験できない人が結構いたそうです。したがって、今年ハノイ大学の日本語学部の大学院生の数は珍しく少なかったのです。

しかし、少人数の授業こそ少人数の教育のメリットが実感できました。授業中、学生が一人ずつ先生からの問題提供に対して自分の意見を述べるし、質問しやすかったです。先生の方も一人ずつのレベルを確かめながら進めていくという授業が実施できました。

最後の日、奈良女子大学について紹介の部分では雰囲気が盛り上がり、是非奈良女子大学に留学する事を目指したいと三人のうち一人が言っていました。

今年も鈴木先生の授業は本当に有用性の高い授業でハノイ大学の大学院生の皆さんが喜んでいました。

4. 東北ツアー2014

今年度の「異文化理解と平和構築」は、３つのグループに分かれて授業が行われました。2013 年度ニュージーランド短期英語研修参加者のグループ、奈良でできる東北復興支援を考えるグループ、そして、東北でどんな支援活動ができるかを考えるグループです。東北ツアーに参加し、東北の今を見てきた学生の感想文です。

生活環境学部　食物栄養学科　１回生　田中七奈海

今回私は、「異文化理解と平和構築」講義の総仕上げとして釜石、仙台、石巻の「みんなの家」を巡る東北ツアーに参加させていただきました。講義の中では現地でできる被災地支援について考えてきたのですが、実際に被災地を訪れたことは一度もなく、実態を少しでも知りたいと思ったためです。また、私はグループワークで仮設商店街で餅つき大会を開き関西と東北のお雑煮を食べ比べてもらう、という企画を考えてきました。この企画について実際に現地の方に意見をいただきたいと思ったためです。訪れた中で私が一番印象に残ったのは、釜石の町でした。街中は、真新しい建物と残った建物、まだ基礎の工事もされていないような空地がまばらに混ざり合っていました。津波から生き残った建物には、水がそこまで上がったのであろう跡がくっきりと残っており、震災の爪痕が感じられました。「みんなの家」では、東北の商品を支援イベントなどで使うのが復興のためになるというのはそろそろ飽きがきてしまっていて、逆に関西のものを持ち込んでくれる方が嬉しいとおっしゃられたのに衝撃を受けました。良かれと思って支援をする側と、それを受ける側の、感覚の違いをすり合わせる事が大切だと感じました。他の二ヵ所でも、それぞれの活動や、大変な点について興味深いお話を伺うことができました。次は、大学で学んでいる栄養学を生かして何か継続的な支援をしていけたらと思いました。

写真提供：「異文化理解と平和構築」佐原康夫教授

5. センター及び国際課の活動（2014年1月～3月）

◆ 国際交流センター及び国際課主催事業一覧

２０１４年　２月　１８日　　「学長主催修了・卒業留学生懇談会」
【２０１３年度　ニュージーランド短期英語研修関連】
２０１４年　１月　２７日　　「ニュージーランド勉強会」
２０１４年　２月　１７日・１９日　「最終渡航説明会・渡航前 TOEFL-ITP テスト」
２０１４年　２月　２０日　　「出発」
２０１４年　３月　２１日　　「帰国」
２０１４年　３月　２４日　　「帰国後 TOEFL-ITP テスト」

▼「学長主催修了・卒業留学生懇談会」

平成 26 年３月に修了・卒業予定の留学生のうち８名が集い、学長、副学長（教育・学生担当）をはじめ、お世話になった教員らと懇談会を行いました。まず、学長から記念品とともにあたたかいはなむけの言葉をいただきました。その後、軽食をとりながら本学での留学生活を互いに振り返り、一人一人が今後の飛躍について決意を語りました。日本国内で就職する方、帰国して就職または勉学を続ける方など、今後はそれぞれの道に進むこととなり、卒業生としての活躍が楽しみです。

▼「2013 年度ニュージーランド短期英語研修」

2月 20 日（木）、2013 年度ニュージーランド短期英語研修の参加者 26 名と、引率教員のフランチェスコ・ボルスタッドが関西国際空港より出発しました。今年度は、2月 23日（日）に開催される、カンタベリージャパンデーというイベントに参加するため、後期「異文化理解と平和構築」の授業の中で、準備を進めてきました。学生の現地からの報告によりますと、展示やダンスの発表は大盛況だったようです。24 日（月）から、リンカーン大学 English　Language　Centre での４週間の研修がスタートしました。

6. センター来訪者（2014年　1月～3月）

日付	来訪者	来訪目的
1 月 30 日（木）	Prof.David G.Lambert　　レスター大学 教授	学長表敬

7. センター図書情報

国際交流センターでは、奈良女子大学で学ぶ留学生・日本人学生・ボランティア活動に興味をお持ちの皆さん等に図書の貸し出しを行っています。今回は電子書籍（Maruzen eBook Library）も入手しました。電子書籍は、奈良女子大学内のパソコンで閲覧することができますので、是非ご利用ください。

【一般図書】

KANJI LOOK AND LEARN/絵で見る漢字/ワンピース 69 巻～72 巻/ちはやふる 1 巻～23 巻

【Maruzen eBook Library】

海外の大学・大学院で授業を受ける技術/留学入試エッセー－理系編－/留学入試エッセー－文系編－/英和学習基本用語辞典欧州近代史　新装版/

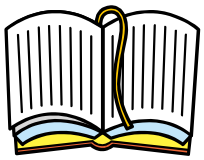
MACMILLAN READERS :4.Pre-intermediate レベルセット

MACMILLAN READERS :5.Intermediate レベルセット

MACMILLAN　READERS には以下の作品が入っています。

A midsummer night`s dream/Daisy Miller/Far from the madding crowd/Gandhi/Heidi/Michael Jackson/Nelson Mandela/Owl Creek Bridge and other stories/Owl hall/Persuasion/Robin Hood/Robinson Crusoe/Romeo and Juliet/Selected short stories by D.H.Lawrence/
The call of the wild/The secret garden/The story of the Olympics/The tenant of Wildfell Hall/The treasure of Monte Cristo/The wizard of Oz/Bristol murder/David Copperfield/Dracula/Emma/Hamlet/King Arthur and the knights of the round table/Oliver Twist/Pride and prejudice/The merchant of Venice/The red and the black/The smuggler/The speckled band and other stories/Meet me in Istanbul/Much ado about nothing/Sense and sensibility/The space invaders/The enchanted April/The Queen of death/The woman who disappeared/The woodlanders/Wuthering Heights

<<Maruzen eBook Library 閲覧方法>>



国際交流センターのパソコンで閲覧する場合

：デスクトップに「Maruzen eBook Library」のアイコンがあります。

国際交流センター以外の場所で閲覧する場合

：奈良女子大学附属図書館ホームページ→「情報検索」→「図書・雑誌を探す」→「奈良女子大学で探す」→「Maruzen eBook Library」

＊閲覧が終わったら必ず「閲覧終了」で終わってください。

編集後記

国際交流センターは 4 月に新しいメンバーを迎えるため、センターの模様替えをしています。どんな風に変わるのか、乞うご期待です。
国際交流センターNews Letter Vol.34 にご意見ご感想がありましたら、右記連絡先までお願いします。　（編集者：中谷治子）

奈良女子大学国際交流センター　News Letter vol.34
2014 年 3 月発行　　奈良女子大学国際交流センター
〒630-8506 奈良市北魚屋東町　TEL: 0742-20-3736
E-mail: iec@cc.nara - wu.ac.jp
http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/index.html